

平成23年度 佐賀県立三養基学校 学校評価計画

<b>1 学校教育目標</b>
平和な国家及び社会に有為の人材を育成するため、校訓「質実剛健」のもと、自主自律の精神の涵養をとおり、知・徳・体の調和のとれた教育を目指す。

<b>2 学校経営ビジョン</b>
①伝統ある校風の堅持 ②変化の激しい社会を生きる力の育成 ③保護者・地域との連携

<b>3 本年度の重点目標</b>	<b>4 前年度の成果と課題</b>
① 自律心を持った心豊かな生徒の育成 ② 授業の工夫・改善と生徒の進路意識の向上 ③ 保護者・地域との連携強化	文武両道に励む教育環境は整っており、PTA・同窓会が学校の教育活動を支援・協力しようとする意識が高い。また、生徒指導面の基盤が整っており、校内の雰囲気は落ち着いている。飾り気のない素朴な生徒が多く、生徒指導上の問題点も極めて少ない。一昨年度国際文化コースが閉科となり、昨年度より普通科15学級の進学校として校内の体制を整えてきている。教務を中心とした丁寧な情報提供や校務分掌・学年の業務割り振り、また経費節減・危機管理等全体として整理されてきており、ひいては組織的に教育目標に取り組む体制がより強化されてきている。 一方、生徒の家庭学習の不足が顕著であり、国公立大学合格者数も伸び悩んでおり、学力向上の面に課題がある。また生きる力(知識技能の修得の上に、時代の変化に対応できる力)の育成という点を意識した指導を充実させる必要がある。

**5 総括表**

① 自律心を持った心豊かな生徒の育成				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○校内美化	校内美化活動の充実度合	校内美化への意識を高め80%以上が学校環境として満足できる環境にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除マニュアルに基づき清掃を徹底する。</li> <li>・音楽放送により意識を高揚する。</li> <li>・持ち込みゴミの持ち帰りを徹底する。</li> <li>・ゴミ捨て前の分別状況を確認し指導する。</li> <li>・保護者への協力を依頼する。</li> </ul>
	○生徒指導	基本的生活習慣の確立 生徒の理解	授業開始時の完全準備着席率100%の達成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教師は1分前に教室に入り着席と準備をさせる。</li> <li>・総体後のノーチャイムを実施する。</li> </ul>
			出席率99%以上の達成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月ごとの出欠統計を有効に活用する。</li> <li>・皆勤賞表彰を実施する。</li> </ul>
			服装指導の徹底を図り、問題行動の未然防止を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装指導の再指導を実施し、再々指導を徹底する。</li> <li>・校門指導を実施する。</li> <li>・学期に1回、一斉校門指導と校外指導を実施する。</li> <li>・学期に数回、昼休みに校内を巡視する。</li> </ul>
			挨拶の励行や礼法指導を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員自らが手本となり挨拶や礼儀作法を指導する。</li> </ul>
			個々の生徒に応じた指導助言ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談週間を設定し、年3回実施する。</li> <li>・担任どうし、教科担当どうしの連携を強化し、生徒を幅広く見る。</li> <li>・スクールアドバイザーと連携する。</li> </ul>
	部活動入部率の80%以上達成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動への入部を奨励する。</li> <li>・部室、練習場等の環境整備に努める。</li> </ul>		
○読書指導	読書の励行・習慣化	図書貸し出し数前年度比10%増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日、朝読書を実施する。</li> <li>・広報を充実させる。</li> <li>・蔵書を充実させる。</li> </ul>	
●心の教育	ボランティア活動の推進	学校周辺の清掃活動の実施や、中原養護学校との交流を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会を中心として中原駅や学校周辺の清掃活動を実施する。</li> <li>・全校生徒による学校周辺の清掃活動を実施する。</li> <li>・吹奏楽部の演奏を通して中原養護学校との交流会や地域文化行事への参加を実施する。</li> </ul>	

**② 授業の工夫・改善と生徒の進路意識の向上**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	学習指導の充実	評価規準を明確にし、教材観の統一を図り指導方法の向上に努め、授業評価によって生徒の70%以上が分かり、40%以上がよく分かるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科・科目ごとに年間指導計画と評価計画を検証し改訂する。</li> <li>・教材の共有化と開発を促進する。</li> <li>・職員対象の公開授業を実施する。</li> <li>・授業評価を活用する。</li> </ul>
			大学入試問題の研究	主要大学の入試問題研究を行う。

	家庭学習の充実	家庭学習時間(1時間+学年)の70%以上の達成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期ごとに全校一斉に学習時間を調査し、結果を集計し、指導に役立てる。</li> <li>予習・授業・復習の学習サイクルを定着させる。</li> <li>質量ともに適切な課題を課し提出を徹底する。</li> </ul>
○進路指導	進路意識の啓発	生徒全員が自己の将来に対する考えを深化させ、具体化させることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパスへの全員参加を促進する。</li> <li>大学とのジョイントセミナーを実施する。</li> <li>学部学科研究を実施する。</li> <li>学期ごとに進路希望調査を実施する。</li> </ul>
		体系的・継続可能なキャリア教育の在り方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育を意識した職業研究を実施する。</li> <li>進路に関する講演等を実施する。</li> </ul>
	進路希望の達成	入試情報を収集研究し、進路実現に役立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学説明会や予備校等の入試情報研修会に積極的に参加し情報の共有化を図る。</li> <li>生徒・保護者が必要とする進路情報を的確に提供し、希望進路実現に必要な力を明示する。</li> </ul>
		国公立大学合格数60名の達成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科・学年ごとに模試の目標偏差値を設定。</li> <li>模試の結果や入試問題を教科・学年ごとに分析し、学習指導に役立てる。</li> <li>学年ごとに進路検討会を実施し、課題や改善策を検討する。</li> </ul>

③ 保護者・地域との連携強化				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	本年度教育目標(校訓・スローガン)の周知	本年度の教育目標(校訓・スローガン)を知っている保護者の割合を65%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者会、PTA総会、学校だより、学校のホームページ等を通して周知を図る。</li> </ul>
	○開かれた学校づくり	授業参観の実施	保護者対象の授業参観を年2回実施する。参加者数を前年より増加させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA行事との連携を図る。</li> <li>HPやEDQスクールニュースの利用を促進する。</li> </ul>
		広報活動の充実	本校の教育目標や教育活動を分かりやすい形でタイムリーに発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校進路説明会に中堅教諭を派遣し、広報する。</li> <li>パネル展示を充実させる。</li> <li>ホームページを充実させる。</li> <li>学校だよりを充実させる。</li> </ul>
		保護者との連携強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区保護者会、学年保護者会を利用してさらに連携を強化する。</li> </ul>	

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目及び独自評価項目				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	安全教育・健康管理の充実	安全の確保・衛生の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期に1回、安全点検を実施する。</li> <li>定期・不定期の巡回を行い、日常の安全意識を高める。</li> <li>保健便りを発行し衛生意識を高める。</li> <li>保健体育の授業との連携を強化し、安全・健康講話などをとおして、安全教育、健康教育の充実を図る。</li> </ul>
学校運営	○学校環境整備	経費削減	紙類の使用量の削減、電気・水道等の節減による予算捻出に努め、環境整備費として校内環境の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>用紙類裏面、縮小、集約コピーを効果的に使用する。</li> <li>節電節水を励行する。</li> </ul>
		施設設備の充実	安全を確保するため、危険箇所の早期発見、廃除及び施設・設備の有効利用設置に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全点検により危険箇所の早期把握に努め、排除を徹底する。</li> <li>校内の排水整備に努める。</li> </ul>
	○危機管理	危機管理体制の整備	危機管理体制の周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備された危機管理マニュアルを確認し、常に活用できる状況にしておく。簡易マニュアルを全職員に配布し、内容の周知に努める。</li> <li>HPやEDQスクールニュース及び学校情報携帯メール利用による迅速な連絡体制を整える。</li> </ul>
	○教職員の資質向上	教科指導、進路指導、事務処理の資質向上	日々の校務の中で、また授業や行事、学年集会等をおして支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科指導、進路指導、事務処理の資質向上を目指して指導・助言する。研修の案内をする。</li> <li>授業参観を多く行い、職員の教科指導力向上を直接支援する。</li> </ul>
特定課題	○国際感覚の育成	異文化理解の推進	コミュニケーション能力テストで、生徒の7割を実用英検準2級に相当するレベルに到達させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション能力テストを年1回実施。</li> <li>ALTを授業で活用し積極的な交流を推進する。</li> <li>本校で年に3回実用英検1次試験を実施する。</li> </ul>
			海外派遣事業の継続実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材育成事業を活用する。</li> </ul>
	○情報機器の活用	情報機器の授業校務両面での活用	情報機器を授業で活用し生徒の理解を高める。情報機器を使いこなし校務の迅速化・効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>月に1回以上、授業での情報機器の活用を図る。</li> <li>情報機器の活用研修会を実施する。</li> <li>ICT支援員と連携し、授業での情報機器の活用及び校務の迅速化・効率化を進める。</li> </ul>

●は共通評価項目、○は独自評価項目







